

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第52号

2024.8 vol.52



2024年第9回総会・ホームカミングデイ



明治学院大学
今尾 真 先生



春の赤坂まち歩き



2023年度16期生修了式

CONTENTS ■ごあいさつ

港区長
明治学院大学学長
CCクラブ代表

清家 愛
今尾 真
阿部 令子

- 2024年度 CCクラブ新体制の紹介
- 2024年第9回CCクラブ総会・ホームカミングデイ
- 学ぶ喜びと出会いをありがとう！
～16期生から寄せられた声～
- まち歩き・美術館探訪
- 明治学院高等学校家庭科授業ゲストスピーチ
- 運営委員会報告

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様へ

■港区長 清家 愛

この度、新しく港区長に就任いたしました清家愛です。どうぞよろしくお願いいたします。



チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さまには、日頃から地域のコミュニティリーダーとして多方面にわたり、地域の活性化のために取り組んでいただき、心より感謝申し上げます。

区民参画による検討組織への参加や、区民まつりでのブース出展など、区との協働による地域活動にも積極的に取り組んでいただいております。港区政にとって頼もしい存在です。

コロナを経て、時代の変化のスピードが一層速くなり、港区の街が大きく変わっていく中で、街を愛し、支えてくださる皆さまのお力が益々重要になっていきます。

昔遊びを地域の子どもたちに継承する活動。明治学院大学の学生と連携したボランティア活動。皆さまがこれまで培ってこられた知識や経験を生かし、地域に還元してくださることで、多世代交流、地域コミュニティの育成と活性化が生まれています。それが港区の本当の「まちの力」となります。

本年3月、区は「港区基本計画」の改定を行いました。「誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持てるまち・港区」の実現をめざして、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくることを基本政策として掲げています。コミュニティリーダーの養成や活動の場を支援し、新しい取り組みについても積極的に応援してまいります。

チャレンジコミュニティ・クラブの益々のご発展と、皆さまのご健康とご活躍を心からお祈りいたしております。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆様へ

■明治学院大学学長 今尾 真

明治学院大学学長の今尾真です。本学を学び舎として巣立たれた皆さまに、一言、ご挨拶と激励をさせていただきます。



2007年に、港区と明治学院大学の協働連携のもと開設されたチャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」とする）は、2024年に18年目を迎え（コロナ禍で1年中断）、この4月に第17期生を迎え入れ、ますます盛んになっております。あわせて、2008年から発足したチャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」とする）も17年もの長きにわたり活動され、会員の皆さまには、地域活動の担い手として、活発に活躍されていることを大変喜ばしく思います。

実際、800名近くものCCクラブ会員が、CC大学で学んだことを活かし、いろいろな部会を組織して港区の各地域で、各方面において地域コミュニティ活性化のリーダーとして活躍していることを耳にしますと、とても嬉しく思います。これは、他区にない港区の、ひいては明治学院大学にとっても、大きな財産になっていると確信しております。

私も、第1期から第16期までの17年間、CC大学統括コーディネーターとして、この大学に設置から関わり、皆さまとともに学び、交流を通じて、地域リーダーの育成のお手伝いをできたことを誇りに思っています。

このたび立場は変わりましたが、明治学院大学として、皆さまの活動をさらに支援できる環境の整備と、新たな学びの提供を模索したいと思います。学びは、生涯にわたり続きます。CC大学での学びを活かしてCCクラブ会員として社会で活躍し、その経験をさらに深化させられる学びの仕組み（CC大学の上に〔仮称〕アドバンスコースの設置）を考えたいと思います。

皆さまの母校は、明治学院大学＝CC大学です。皆さまの活躍は母校の誇りでもあります。また、皆さまもこのことを自覚してさらなる活動の輪を広げていただくことを期待しております。今後ますますの皆さまのご活躍とご発展を祈念いたします。

新年度にあたって

■CCクラブ代表 阿部 令子(10期)

新たに16期生をお迎えして、新年度がスタートしました。また、統括コーディネーターとしてCC大学時代にお世話になりました今尾先生が、明治学院大学学長に就任されました。私たちにとっても喜ばしく、CCクラブや地域の様々な場面で活躍されている皆様の頼りになることと、期待しています。



今年度も、楽しく嬉しい気持ちになれる、また時には、新しいことを見つけてチャレンジできるCCクラブを目指して活動していきたいと考えています。4年間に渡り書面で採択されてきた総会決議は、規約通り総会にご出席いただいた皆様のご判断になりました。

オンラインと会場で行ってきた運営委員会も、会場にご参会いただくことになったので、益々活発な意見交換の場になるように努めて参ります。今は少しCCクラブから遠ざかっている方も、普段からご参加いただいている方も、何かお気付きの点やご提案があれば、期・グループの運営委員の皆様にお伝えください。多くの皆様からのお力をお借りして、より参加しやすく又、参加したくなるようなCCクラブでありたいと願っています。

高齢者の生き甲斐や社会貢献に注目が集まってきている今、改めてCC大学で学んだ意義とCCクラブの価値を考えてみませんか？日々を楽しく過ごすヒントがたくさんあるのではないのでしょうか。まずは、難しく考えず久しぶりに仲間と会って親睦を深めるとか、授業でお邪魔した美術館を訪ねてみるとか、楽しいことを見付けてみてはいかがでしょうか。そこから更に一歩進めば、誰かの笑顔の為にできる何かが、見つかるかもしれません。

今年度も引き続き、港区様、明治学院大学様、港区関連団体様など、多くの方々との繋がりを大切にしながら、CCクラブ会員の皆さまが益々ご活躍いただけるように、お手伝いができましたら幸いです。ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

チャレンジコミュニティ通信は、 地域活動推進の情報を提供します

港区は、2007年4月に地域活動のリーダーを養成することを目的として、明治学院大学との連携により、チャレンジコミュニティ大学を開設しました。この大学は港区在住の60歳以上の方を対象に各々がこれまで培ってきた知識・経験を地域に生かし、生きがいのある豊かな人生を創造し、また学習を通じて個々の能力を再開発することを目指して創設されました。

2008年3月、第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ(略称CCクラブ)が創設されました。この大学で学んだ知識を活用し、地域課題の解決に向け、会員が地域活動を推進することを目的としています。このクラブは地域活動のリーダーを育て、港区のまちづくりや地域ネットワークの構築を進め、併せて各人の資質の向上をはかっていきます。

この目的に沿って、CCクラブ会員が自主的に地域活動をしています。地域活動推進の情報提供や活動状況を紹介するため、チャレンジコミュニティ通信を発行しています。

年間を通しての全体活動として、主な活動は以下のようなものがあります。

- ・総会、ホームカミングデイ
- ・明治学院大学との協働活動
- ・みなと区民まつりへの参加や港区との協働活動
- ・港区社会福祉協議会地域福祉フォーラムの運営協力や協働活動
- ・活動報告会

また、地域での活動として各地域CCクラブでの活動や多くの活動機会ができています。

- ・芝CCクラブ(芝地区)
- ・明虹会(芝浦・港南・台場地区)
- ・高輪地区CCクラブ(高輪地区)
- ・3Aクラブ(麻布・赤坂・青山地区)

様々な機会を通してご自分でできることを探しチャレンジしてみてください。

また会員相互の情報としては、各団体等での会員の活躍状況や、クラブ企画の講演会・講習会、施設見学会の開催案内等を適宜紹介していきます。

2024年度CCクラブ新体制の紹介

副代表 瀬能 正実 (10期)

2023年度副代表に選任され、従来の対面型の活動に戻すことを重点課題にしてきました。



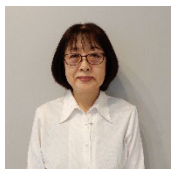
月1回開催される役員会では、各部長が力をかさね討議し各催しに注力いたしてまいりました。運営委員会でも各運営委員の声を聞き、できる限り皆さまの声が反映されるよう努めてまいりました。まだまだ不十分な点が多々あるかと思いますがオープンな運営を目指してまいります。

又、対外的活動支援には各地区CCクラブからのご協力も重要であり、運営委員会・地区会議を通じ情報交換はじめお話し合いができればと思っています。

CCクラブ会員は約800名と年々大きくなっており、どのようにコミュニケーションをスムーズにするか、それがメンバーが行う地域活動の充実につながるよう注力する所存です。

副代表 松嶋 恵美子 (10期)

2023年副代表に選任されてから、役員会・運営委員会の皆様にお力添えをいただき会議・イベント・行事等と慌ただしい活動の一年間でした。役員・運営委員の皆様とは、この一年間を通じて交流を深め多くのことを学びコミュニケーション力の重要性を感じました。



今後6月からオンライン会議が廃止された運営委員会が円滑に進むように協力し、又交流を通じて各部会間の連携に繋げていきたいと思っています。

2023年5月からコロナ感染が5類感染症になり、CCクラブでも会員皆様の行動や活動が活発になりイベント・行事等にも多くの方々のご参加をいただきました。

今後も会員皆様、CC大学17期生にも活動情報を適時に発信します。人生100年時代、CCクラブ活動に参加し多世代の人々と交流し健康で充実した人生を送りましょう。老けない秘密は、好奇心

でワクワク、お洒落をして出かけることです。

企画部会 太田 則義 (7期)

2023年度は感染症の影響があり、まだまだコロナ禍前の活動は戻りませんでした。2024年度はコロナ禍前の活動とコロナ禍中に始めた活動があり、忙しい一年になりそうです。

部会員が多いため、今年度は部会員の考えを反映できることや活躍できる体制にするために、「講演会・学ぶ会」、「区民まつり」、「関連団体イベント」、「ICTお助け隊」、「お楽しみ隊」の5つのチームを作り活動することになりました。

このCC通信に掲載されているまち歩きを今年は春にも行いました。ホームカミングデイ交流会のアイデアも出し、現在、秋の計画について検討を進めています。CCクラブ全体の活動を活発にすること、そして部会員が楽しめる部会を心がけたいと考えています。皆さんからもいろいろなアイデアを頂きたいと思いますので、よろしく願います。



ホームページ部会 岡部 正實 (10期)

今年度は新たに3名の部員(15期2名、16期1名)を迎え総勢9名で活動を開始しております。

ホームページ(HP)はCCクラブ会員ならびに地域への情報発信の場(手段)であり、会員間の相互の情報交換の場でもあります。一方、会員の日頃の活動の記録や諸会議の議事録などを保管するアーカイブ機能も担っております。すなわち運営委員会・各部会・地域CC会議・各期/各Gの活動状況などをタイムリーに発信し、その足跡を記録し、アーカイブとして保管することを重要な任務としています。

今年度は会員用HPの更なる充実と普及を目標にして活動致します。会員の皆様には身近にHPを開いて情報収集や発信をしていただき、また我々HP部員は、少しでも皆様からの投稿をご支

援できるように、編集スキルアップに努めたいと考えております。投稿方法の研修会は随時開催しています。ご希望の場合は、次のアドレスまでご連絡ください。cc.okabe6981@gmail.com



会報部会 瀬能 正実(10期)

昨年度に引き続きメンバーとなってくれている8人に、10期生の方1人と16期生新メンバー1人の方が参加され、総勢10人で活動することになりました。

CC通信の発刊が主な業務であり、今年度も7月末の発刊と来年3月の発刊を予定しています。

主な内容は港区・明治学院大学関係者の挨拶、CCクラブの活動報告ですが、会員皆様の活動内容紹介をとりあげるだけでなく皆様の投稿もお待ちしております。

部会員の手で入稿データをつくる方法も部会員に浸透してきており、CCクラブ会員で冊子作製にご興味ある方は是非会報部会をご訪問ください。



地域連携部会 金原 智子(10期)

地域連携部会は各地域活動の連携を図り、それぞれの活動を他のCCクラブ会員に紹介することを目的としています。定例部会を月に1回行い意見を交わして情報の共有を行っています。

明治学院大学はじめ港区各支所協働推進課、社会福祉協議会等関係部署との連携を図るために四半期に1回地区CC会議を開催しています。主な活動は昨年に引き続きクローズアップCC、この指と〜まれ、昔遊びの会に加え、さらに活動の幅を

広げました。1 Day for Others を実施していきます。

昨年度の活動実態調査正規版も7月には発行する予定です。また今年度も赤羽小学校との授業協力で昔遊びを実施する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

地域連携部会は新たに16期生5名の入会があり13名でスタートします。より活発な活動が出来ることを期待しています。皆様の日頃の活動の中でCCクラブ員に紹介したいもの等ありましたら是非お知らせください。



総務部会 池上 繁夫(15期)

CCクラブの円滑な運営を図るため、毎月一回運営委員会が開催されています。その運営委員会の資料の作成、議事録を作成し、各種お知らせ等と共に一斉メールにより会員の皆様へ配信を行っております。新型コロナウイルス感染禍においては、感染を避けるためオンライン会議を行い、オンラインツールであるZoomを活用した会議を実施してきました。また、一斉メールを配信するために必要なメールアドレスの管理も大事な活動です。さらに、CCクラブの最高意思決定機関である総会並びに活動報告会等の運営の支援を行っております。

総務部会は港区行政、明治学院大学や社会福祉協議会等との連携を図り、それらの関係先から得た情報をCCクラブ会員に提供しています。

ときには総務部会をお茶会にして、楽しく活動できるように懇談しながら進めています。皆さんもぜひ総務部会に遊びに来てください。



2024年 第9回 CCクラブ総会・ホームカミングデイ

2024年第9回CCクラブ総会・ホームカミングデイは、明治学院大学 3201 教室とパレットゾーンにて6月22日(土)13時30分～18時30分で開催されました。総会には会員111名、来賓9名、ホームカミングデイの講演会には会員121名、17期生12名、来賓10名が参加し、パレットゾーン2階で行われた交流会には会員89名、来賓7名が参加しました。現在の会員数は778名です。

総会は、13時30分に松嶋恵美子副代表(10期)の司会で始まりました。

CCクラブ阿部令子代表(10期)挨拶

新型コロナウイルス感染症による行動制限のために、オンラインでの総会開催断念を余儀なくされた年もあり、会場とオンラインを組み合わせ合わせて開催する年もありました。

感染症に対する心配は、まだまだ続きます。必要な対策を心がけて活躍している皆様の姿を拝見し、また、こうして会場にて皆様の変らぬ笑顔に接することが嬉しく、困難の4年間を乗り越えて、誇らしい気持ちになっています。今後は、対面の会議を増やし、皆様から多くのご意見をいただき、CCクラブの運営にもご協力をいただきながら活動を進めていきます。多くの方々が、ご自身も楽しみながら、CCクラブの活動にご参加いただくと幸いです。

明治学院大学CCクラブ統括コーディネーター黒田美亜紀副学長挨拶

コロナ禍で人が集うことが制限され、私たちの意識の中でも何となく集うことが制限されてきました。人とつながりづらいつながり状況が続きましたが、今日、多くの方がここに集えることをとても嬉しく思っています。

本日、今尾先生は、皆様とお会いすることによりかなり気合が入っているようです。講演の中には河合先生や私も登場するようです。本日の今尾先生の講演では、今尾先生の人となりを知ることができるとお思いますので楽しみにしててください。

本日もご出席の皆様方にはCC大学およびCCクラブの人とつながり、地域とつながる活動にご理解とご協力をお願いいたします。



港区高輪地区総合支所協働推進課大野香乃子地区政策担当係長挨拶

本日は高輪地区総合支所長白井隆司と、協働推進課長本城典子が諸事情で欠席となり代理で挨拶させていただきます。私が高輪支所にまいりまして4年目となりますが、この間まさにコロナ禍で、かなり活動が難しい時期があったと思います。そのような中でも皆さんの活動がデジタルを駆使するなどして続けられ、本日もお会いすることができ、嬉しい気持ちでおります。これからも区役所・支所としてもサポートさせていただき、一緒に手を取り合って地域の活性化のために役に立ちたいと思っています。

来賓の挨拶の後に、明治学院大学学長特別補佐名誉教授河合克義様、帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美様、明治学院大学学長室次長加畑慎一様、社会連携課青木洋治様、港区社会福祉協議会事務局長長谷川浩義様、同事務局次長高嶋慶一様、港区立介護予防総合センター(ラクっちゃ)外丸愛子様、港区芝地区相談センター主事安嶋南様が紹介されました。



2024年第9回CCクラブ総会

松嶋副代表が進行役を務め総会が開始されました。当日の出席者の報告に続き、規約により阿部令子代表が議長となり開始されました。

第1号議案 2023年度活動実績について、阿部代表より詳細な活動内容と会計内容の説明があり、拍手により賛成多数で承認されました。第2号議案 2024年度活動計画(案)については、阿部代表より活動方針、活動テーマ、運営部門の計画、各部会のメンバーと計画、そして地域CCクラブの計画の説明があり、拍手により承認されました。第3号議案(役員選任)も承認され、総会終了後、役員7名が壇上に上がり自己紹介をしました。

総会資料はホームページでご覧ください。

ホームカミングデイ 講演会

冒頭、CCクラブ代表阿部令子から今尾真明治学院大学学長へ感謝の辞と経歴紹介がありました。

法律学のおもしろさ

—民法学のすゝめ

講演者 明治学院大学 学長

今尾 真 様

(講演内容は誌面の都合で講演資料の抜粋と一部加筆掲載になります)

一 法律学を学ぶことになったわけ

- ・文学青年……モンテニュの『エッセー』からカミュの『異邦人』まで
- ・仏文科に振られて法学部にしか受からなかった
- ・大学での挫折と立ち直り……母親の取りなし



二 いろいろな師との出会い—法律学の面白さを実感

1. 日本の師匠

- (1) 「三方一両損」、「安定と変化の調和」……下森定元法政大学総長。
- (2) 「法は歴史の産物」、「人がやっていないところを掘れ」……鎌田薫元早稲田大学総長
- (3) 「実質論と形式論」による「法解釈の実践的方法」……米倉明元東京大学・元早稲田大学教授
- (4) 「ローマは三度世界を征服した」、「信託の起源は十字軍にあり」……道垣内弘人元東京大学教授・専修大学教授

2. 外国の師匠……フランスはパリ第二大学ピエール・クロック教授

・ナポレオン曰く

「余の真の荣誉は、40度の戦いに勝利を得たことではない。ワーテルロー(1815年に英・独・露・奥の連合軍と戦ってナポレオンが敗れた戦い。イギリスのウェリントン公爵が連合軍の総大将)は、それだけの戦勝の

思い出を消してしまった。消えないもの、永久に生きるものは、余の民法典である」

三 わたしの研究テーマ—先取特権と所有権担保と成年後見法制

1. 所有権の不思議……宇奈月温泉事件

・民法 206 条

「所有者は、法令の制限内において、自由にその所有物の使用、収益及び処分をする権利を有する。」

・【大審院昭和 10 年 10 月 5 日第三民事部判決(民集 14 卷 1965 頁)】

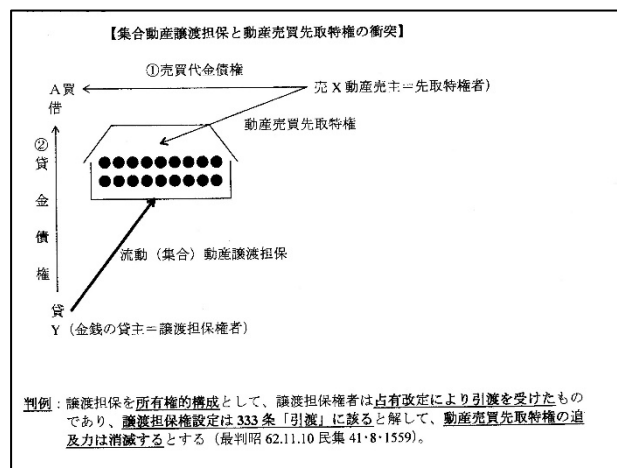
「該侵害ニ因ル損失云フニ足ラス而モ侵害ノ除去著シク困難ニシテ縦令之ヲ為シ得トスルモ莫大ナル費用ヲ要スヘキ場合ニ於テ第三者ニシテ斯ル事実アルヲ奇貨トシ不当ナル利益ヲ図リ殊更侵害ニ関係アル物件ヲ買収セル上一面ニ於テ侵害者ニ対シ侵害状態ノ除去ヲ迫リ他面ニ於テハ該物件其ノ他ノ自己所有物件ヲ不相当ニ巨額ナル代金ヲ以テ買取ラレタキ旨ノ要求ヲ提示シ他ノ一切ノ協調ニ応セスト主張スルカ如キニ於テハ該除去ノ請求ハ単ニ所有権ノ行使タル外形ヲ構フルニ止マリ真ニ権利ヲ救済セムトスルニアラス即チ如上ノ行為ハ全体ニ於テ専ラ不当ナル利益ノ摺得ヲ目的トシ所有権ヲ以テ其ノ具ニ供スルニ帰スルモノナレハ社会観念上所有権ノ目的ニ違背シ其ノ機能トシテ許サルヘキ範圍ヲ超脱スルモノニシテ**権利ノ濫用ニ外ナラス**」

- ・Ius, Recht, Droit, Dritto, Right = 「権利」……「正しきもの = 社会規範秩序の総体」を含んでおり、したがって、「権利」を行使するものは「正しきもの」を世に問うている

2. 所有権担保の脅威に対する疑問と挑戦

・民法 321 条

「動産の売買の先取特権は、動産の代価及びその利息に関し、その動産について存在する。」



3. 選定したテーマとその広がり

(1) 先取特権 *privilège*

この権利は、法定担保物権と違って、抵当権や質権のように当事者間の約束で発生させるものではなく、これこれこういう事態が生じると、法律上当然に優先権を発生させる権利で、民法の先取特権は、嫌われておりますが、民法以外では、税金の先取特権など、重宝がられている権利です。

・民法 303 条

「先取特権者は、この法律その他の法律の規定に従い、その債務者の財産について、他の債権者に先立って自己の債権の弁済を受ける権利を有する。」

・民法 317 条

「旅館の宿泊の先取特権は、宿泊客が負担すべき宿泊料及び飲食料に関し、その旅館に在るその宿泊客の手荷物について存在する。」

・旧 317 条

「旅店宿泊ノ先取特権ハ旅客、其従者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在ス」

・フランス法の先取特権の議論

伐木→材木に加工◎、 樹木→炭◎、

Cf.牛乳→チーズ?、 ブドウ→ワイン?

単なる物理的変化のときは先取特権を行使でき、質的变化のときはもはや先取特権は消滅する。

(2) 譲渡担保・所有権留保・債権の譲渡担保の研究への拡大・発展

先取特権と衝突する譲渡担保権、先取特権と同じ機能を営む所有権留保と研究テーマが横に広がった。

4. ライフワークの発見……ものをはっきり主張する後輩との再会

(1) きっかけ——出会いの衝撃

・黒田美亜紀教授⇒頭脳明晰、言語明瞭、ユニークかつ合理的

・明学に「成年後見法制」講座の開講

(2) 成年後見法制の日仏比較とライフワークとしての意識

(日本の成年後見制度の問題点)

- ・この制度を必要とする人々への周知が不徹底
- ・この制度自体が民法に規定され、後見人が代理人として被後見人を保護するという構造に問題がある点

→能力が減退した人が何を望んでいるのか、本人のために一番何が望ましいことなのかを汲み取る意思決定支援といった考え方が民法の代理制度では限界

・この制度にかかわる司法制度、家庭裁判所のマンパワーの不足

(港区の成年後見支援に従事)

・港区の社会福祉協議会の成年後見支援センター運営委員会委員長

・港区の成年後見制度利用促進協議会の会長

四 民法学のすゝめ

・民法学の難しさ……条文数 1050 箇条

・民法学が取り扱う範囲……人が生まれる前から死んだ後までの人間の人生にかかわる財産・家族の問題をすべてカバー

・民法学を学ぶ意味……“常識的なものの見方”を体得

→「紛争に至る前に立ち止まって、冷静に考え、当事者双方が一定の妥協点を見出す努力をなさい」ということ

むすび—文学と法律学との対話

文学を志した者が、法律学におもしろさを感じるようになったのは、次のようなことだと思います。

物事の事象や意見・主張を、ありのまま受け入れるのではなく、自分自身が納得のいく説明をつけて、それが多くの人の共感を得られるものかどうかの検証をする、つまり、法律学は説明をつけるということのおもしろさではないか、そうした説明が時代や歴史の試練を経て現在にまで至っている、あるいは現在は受け入れられない、といった中に、普遍的な理論や考えを見いだす、そういうところに興味と関心を持つに至ったのだと思います。

そして、こうした楽しみと喜びを教えてくださいました師や人との出会いが、またこの思いを強くしてくれたのだと思います。

さらに、法律学の中に、実は多くの文学の題材があったのであり、文学は法律学が取り扱うどろどろした人間模様をそのままの形で出すのではなく、一般化して、いろいろな形にそれを作品化して、人の前に示すものといえますが、そこには、やはり人を扱う点で共通する、そして、より掘り下げれば、人が寄れば、愛憎があり、葛藤が生じ、ひいては争いが起こる、その

際に、人の心の動きや行動に多くの共感を与えるものが文学であるならば、法律学はその最たる争いをどのように多くの人の共感を得るために収めるかという、奥深い学問ではないかと思う次第です。

そんな、「文学と法律学との対話」とにわたる私の空想を、ささやかな経験を通してお話させていただきました。

ところで、最後に明治学院大学の宣伝をさせていただきます。本学は、本気で「箱根駅伝本戦出場」を目指しますので、皆さんに是非応援をお願いしたいと思います。応援には、いろいろなやり方があります。沿道で旗を振る応援もあれば、財政的な支援の仕方もございます。双方ございますが、この辺は、まさに民法の私的自治で皆さんの思うようにやっていただければと存じます。

ご静聴、ありがとうございました。



交流会

交流会は2月の活動報告会に続き開催されましたが、ホームカミングデイとして5年振りになります。太田則義（7期）企画部会長が司会を務め、阿部代表、高輪支所大野様、明治学院大学加畑様の挨拶後河合先生の乾杯で始まりました。会のなかでは16期の方が自己紹介をし、今尾先生、黒田先生の挨拶も再度あり、瀬能正実（10期）副代表の挨拶でお開きとなりました。記念撮影もあり和やかに楽しい1時間30分でした。



明治学院高等学校総合家庭科授業 ゲストスピーチ協力

明治学院高等学校3年生を対象にCCクラブ会員が「自身がこれまでしたこと」と「現在何をしています、どのような考えを持ち、日々どのような楽しみを持って生活しているか」をスピーチする会です。授業は一人7～8分で3人がスピーチしその後質疑応答が行われます。

今年も明治学院高等学校から要望があり、社会連携課と連携し、6月12日から6月21日まで合計8回、3年生の授業に参加しました。今回は今までの経験者に加え新たに14期1名と16期4名が加わり全員で16名の会員に協力をしていただきました。

今回参加した14期松尾知足さんからは「はじめはちょっと緊張しましたが、生徒の皆さんに熱心に聞いてもらえて嬉しかったです。60歳から気象予報士の勉強をしたことについて質問を受ける中で、皆さんがしっかり未来をみつめられていることに感動を覚えました。」との感想が寄せられました。



後日高校生からの感想の手紙が参加者に送られますが、その一部を紹介します。

- ・高齢者は考え方が堅く10代である私達には合わないと思っていましたが、今日話を聞いて、柔軟な考え方に共感できるどころや、納得させられるところがたくさんありました！
- ・私の何倍もパワフルで驚いた。高齢者だからといって人生が終わったわけでは全くなくて、たくさんの過去の経験や知見をもとに、もっと濃厚な新しい人生を生きているんだと思った。



学ぶ喜びと出会いをありがとう！

～16期生から寄せられた声～

昨年春に始まったCC大学は、終わってみれば、あっという間の楽しい一年間でした。様々な科目での講義があり、知らなかったことをたくさん教えて頂きました。中でも、港区の行政や福祉の取り組みについて知ることができたことは良かったです。地域でどのような活動が行われているか、自分がいかに恵まれた環境で暮らしているかに気づくことができ、感謝の気持ちで暮らせるようになりました。これからは、自分にできることで地域のために貢献できたらいいなと思っています。 家城 加代子

一年間大変お世話になりありがとうございました。最初は、何となく今後のボランティア活動する為の足掛かりになればと応募致しました。ステキな明治学院で学生生活を送ること、併せて若い頃行った時とは違うドキドキや不安が若干ありましたが、はじめてみると毎回楽しく刺激的な授業ばかりでした。先生方も素晴らしく、飽きずに寝ずに(笑)授業を受けました。これに関しては思いがけないものでしたが、とても良いカリキュラムだと河合先生には感謝です。自然散策や明治学院横浜校、スポーツや音楽鑑賞と多岐に渡り飽きることもなく、クラスメートや担任の先生を囲んでのランチ会など、友人も沢山出来、今後の新しい人生への第一歩となりました。 大住 美佐子



入学式

お人柄のあふれ出た先生方の素晴らしい講義、事務局のとても細やかな気配り、大学の扉を開けた瞬間からそれは始まりました。根底に流れる“温かさ”は修了の時まで変わらず、いつも“護られている”を感じました。そして修了時にはいつの間にか私の考え方がカーブをき

り“もうこの年齢だから”から“この歳だからこそできる”に角度を変えていたのです。3月修了後4月から16期生数名と“介護予防の食講座”を立ち上げ、現在4月度が終わりました。大学で学んだことを基本に歩いて参ります。有り難うございました。 近江 久美子



スポーツ実習

16期生として楽しい一年間を過ごすことが出来ました。平凡な生活から学生となり、身の引き締まる思いでした。先生方の熱心な講義にカルチャーショックを受けました。楽しかった自然探索、音楽鑑賞、世界の問題、高齢者問題、少子化対策、港区地域の実状等々、沢山の事を学びました。今後、皆さんのお役に立てればと思います。職員の方々にはとても親切にして頂き有難うございました。 可児 和子

CC大学を修了して早や2ヵ月がたとうとしています。CC大学とはなんのことか良く理解しないで入学しました。そこで学んだことは大学、港区のことと福祉のことが多いと思いました。今後は区政と福祉をもっとほりさげて勉強していきたいと思っています。 茂木 壽

1. 地域活動について、イメージできた。2. 自分の所属が明確になった。3. 大学のキャンパスで学ぶ、充実感・満足感があつた。4. これからも付き合える、友人ができた。5. 多様なカリキュラムで、授業が楽しみだった。順に述べると、地域活動について、具体的につかめました。学生証による、肩書き、属性を持つことができました。いつでも行くことのできる、居場所ができました。CC大学と同時進行で在宅介護や看取り、入院などのイベントが起き、支えていた

できました。知識、慧眼、経験など多様な方ばかりで、多いに刺激を受けました。巖谷名誉教授の歴史的建造物の授業が、印象的でした。銀杏の木が伐採、残念です。 木村 恵子



文化財見学

CC大学では、芸術・福祉・健康・法律等の幅広い分野の講義・実技を受講でき、とても充実した一年間でした。また、同じ目的で集まった同年代の皆様と知り合うことができ、同級生として共に学べたことは、貴重な経験でした。今後は、CC大学で学んだことを活かしつつ、CCクラブの部会等に参加させていただきたいと思っております。 甲野 裕子

桜が見頃になる4月に入学してわくわくドキドキした事を思い出されます。学生に戻って社会福祉の勉強から始まって文学芸術、心理学、日本美術、経済、建築、法学、スポーツと多岐にわたり学ぶ事が出来ました事は、年齢を重ねても学ぶ事の大切さを教えていただいた一年となりました。楽しかった日々です。

先生、港区、関わって頂いた方々本当に有難うございました。 M. S.

一年を通して、河合先生のCC大学プログラムにかかる熱い思いを実感できたことや、気丈で気品があり、学ぶ姿勢を失わない多くの年長者のお姿を拝見できたことは、とても素晴らしい経験でした。このプログラムの推進・運営に携わった多くの関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。 服部 厚雄

CC大学では毎回とても興味深い講座を受講することが出来、感謝しております。懐かしい階段教室での授業やコロナ渦で制限こそ有りましたが、校外授業等楽しさあふれる様々な授業

を受けることが出来ました。今後はこの受講を活かして、私の生まれ育った港区が、ますます住みやすい街になるように、皆と協力して笑顔いっぱいの楽しい街になるよう微力ながら努力して行きたいと思っております。 宮崎 則行



港区講義

一年間楽しく過ごさせて頂きました。半世紀弱ぶりのキャンパスライフは、心が老体を抜けて出して若かりし日に戻ったような錯覚を産み、授業の合間に校内を歩いては、自分が遙か昔のあの頃にスリップしたような、懐かしく不思議な時間をくれました。決して真面目な生徒ではありませんでしたが、先生方の熱い授業と皆様との交流で、衰えた脳が大いに刺激されました。人生の白秋玄冬の良き道標となりそうです。ありがとうございました。 T. Y.

地元のCCクラブ参加にはCC大学修了が必須とのことで受講させていただきました。社会福祉という今まであまり縁のなかったテーマを一年間学ばせていただき、これまで目を通すことが無かった多くの書籍、作品が引用・紹介され、大変新鮮に感じました。高齢期のウェルビーイングを高めるためのさまざまな施策は、大変素晴らしいものだと思います。お世話になり有難うございました。 石賀 秀行

CC大学の学びは、アツという間で「学ぶ喜び知る楽しさ」に満ち溢れた充実の一年間でした。先般、台湾地震の行政、ボランティアの対応の速さには驚愕です。自然災害の多い昨今、日頃からボランティア活動、訓練の大切さを痛感した。高齢者にも年齢（とし）相応の活動はあると思う。CC大学で学んだ「地域社会に貢献」すること。そんな活動を心がけたいと思う。

S. O.

CC大学で長寿社会について、高齢者が活力ある地域社会を形成する一員であることを学びました。高齢者が元気で活躍できる地域社会は「子供や若者が将来の希望を持つことにもつながる」ということ、その様な長寿社会を目指せるコミュニティー活動の一端を担えたらと思います。最後に、私は家族の支えと同期の皆様ののおかげで無事CC大学を修了出来ました感謝を伝えたいと思います。

奥谷 茂子



春学期まとめの会

様々な学びと共にかげがえのない時を過ごしたCC大学での一年間には感謝の気持ちがいっぱいです。今後は3Aクラブの皆様と一緒に新たな活動をしていけますことが楽しみです。また「MOA美術館港区児童展実行委員会」の実行委員として、児童がより良い社会を創生していくため感性と想像力、豊かな心が育つようボランティア活動に励んで参りたいと思います。

J. K.

第16期CC大学に参加し、同期の仲間と一緒に地域福祉に関わる取組みについて、色々な視点から幅広く学ぶ機会となり、有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後、港区の安全で安心できる快適なまちづくり活動に少しでも生かされればと思います。この間、お世話になりました港区役所、明治学院大学及び関係団体の皆様に厚くお礼申し上げます。

新村 和彦

CC大学での一年間の学びは、思っていたより何倍も楽しく実りあるものでした。先生方から未知の事柄を、たくさん教えて頂きました。特に、社会福祉は、世界のあり様に驚くことが多々ありました。共に学んだ同級生とも、楽しく過ごし、地域の友人となりました。これからは、仲間と共に、地域の力になれたらと思っています。

菅根 愛子

友人の誘いでよく考えずにCC大学に応募して想像もしていなかった楽しい、充実した一年間を過ごす事が出来ました。授業は様々な方々が福祉を中心にしているいろいろな切り口の授業、さらに体育、建物・建築の見学と講義、遠足等。どの回も興味深く、学生の頃よりも真剣に授業を受けたと思います。企画・講義の先生の方々一年間本当にありがとうございました。

M. T.



自然探索

人生100年時代、「好奇心は生きる力」との思いから受講しました。多様な分野に渡る講義や新しい仲間と過ごした時間は新鮮で刺激を受けました。特に印象に残ったのは、佐久総合病院小海分院の由井和也先生、心臓外科医の南淵明宏先生。お二人が現場で今尚現役でご活躍をされているお話には、特に引き込まれるものがありました。これからは地域活動に何かしらのお手伝いできればと思っています。お世話になりました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

T. T.

港区CC大学修了後、芝CCクラブに入会することとなり、新たな人生の第一歩を踏み出す機会を頂き、誠に感謝申し上げます。少しでもお役に立てるソーシャルイノベーターを目指し、地域における本質的な課題解決に取り組む所存です。特に健康づくりサポーターを率先垂範し、他団体(アドプトや混声合唱等)とのコラボレーションを促進したいと考えています。

中原 晃治

一年間たいへんお世話になりました。ここ港区では巷間言われる少子・高齢化問題や貧困、過疎、財政破綻等の社会問題は一部例外的なものでしかなく、社会福祉の問題も他地域ほど切

迫したもので無いと理解しました。この恵まれた港区を築いてきた先人達らに感謝しつつ、自分なりに社会貢献して行こうと思っております。

長谷川 智彦

若い時の大学と今となつての大学、若い時の大学は人生に大きな影響も有りましたが、それなりに仕事に友人にと有意義でした。しかし今回の大学は、世の中を有る程度知っている年代です。今更感は有りましたが、仲間作り、ボランティアへの取組と人生にはまだやる事が残っている事を知らされました。いい大学です。素晴らしい企画です。世の中、特にお年寄りに目が向くようになりました。自分がされる前に出来る事はしたいな！と思うこの頃です。

丸山 正雄



芸術鑑賞

時には難しく理解できない授業もありましたが、あまり興味のなかったテーマが意外に面白かったり知らない世界がたくさんあったりして、学ぶことの大切さを改めて感じました。ユニークな16期生の皆さんにも恵まれ、たくさんの刺激もいただきました。これからもアンテナを広げ自分のペースで好奇心の赴くまま楽しみたいと思います。CC大学に携わる皆様、大変お世話になりました。そして有意義な時間を有難うございました。

K. Y.

『これからの時間を自分らしく悔いなく過ごす為に』という思いで学んだ社会福祉を始めとする幅広い講義は学ぶことの楽しさを毎回感じる日々だった。何より自分より高齢の方々の向学心の高さに港区の力強さを感じ、この先、歳を重ねる事が楽しみの一つになってきた。学ぶ事を継続する事、健康寿命を延ばすべく自ら行動し、大学でのご縁を大切に地域に目を向けた生活をしてゆきたいと思う。

Y. W.

明治学院大学の先生方及び各分野の専門家による教養から専門及び手厚い福祉の講義は、非常に充実していた。豊かでない独居老人の生活や彼等彼女等の住む地域の動画紹介も非常に衝撃的であり、最後は遺言書の作成と至れり尽くせりのカリキュラムだった。便宜上のグループ分けは同期なのに修了迄知らない人が多く疑問。午後開始の講義の方が通学しやすかったし、催しが白金地区中心も問題有。

S. F.



まとめの会（八芳園にて）

CC大学での目的は、学友との交流を通じ自身のキャリアを活かした社会貢献への基盤作りでした。講義内容は多様で充実しており、更にスタッフの方々のサポートに恵まれ、少しずつ目的に近付いている手応えを感じておりました。もう少し長く学びたかったとの思いがあります。また、学友に80から90才の先輩たちがおり、学びに年齢制限がない事を教えられ勇気を頂いた一年でした。

石井 伊智子

友人に勧められて、申し込み&参加いたしました。一年間、最初思っていたよりも短くて、あっという間に過ぎてしまいました。期待していた以上の満足度で、毎回著名な先生方のもも実りの多い講義で、次回の講義が心待ち遠しく、一年間張りのある素晴らしい日々でございました。更に人見知りでどうなることかと思いましたが、一年間を通じ徐々に打ち解け、2日間のまとめの会がいい機会となり、色々なことを話し合える貴重な友人にも恵まれ、実り多い一年でございました。この大学の運営に携わる諸先生方、事務局の方々にとても感謝いたしております。

K. A.

充実した一年間でした。ほどよい関係、ほどよい緊張感、ほどよい刺激を頂戴しました。同期の皆様、講師を引き受けていただいた先生方、

港区の行政の皆様、そしてCC大学の運営に携わっていただいたスタッフの皆様方には、本当にお世話になりました。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。片岡 亮

CC大学での福祉、美術、文学、音楽、体育実習等の充実した内容の講義は、心身の健康の大切さを改めて認識させてくれる有意義な時間でした。四季一巡後に迎えた修了式では、「この学びを今後に生かすことが本当の意味での有意義」と、心の中で呟きました。すべての方々に感謝を申し上げます。 Y. K.

国民負担率が47.5%と5割に迫る時代に日本はなった。10年少し前は30%台だったから、隔世の感がある。これからの公的給付をどうするか、例えばベーシックインカム政策があるが、国民全員に配布する財源は到底無い等々、CC大学の一連の講義は社会の実相と対する処方箋を考えさせ、刺激的で学びに富んでいた。

河本 知之



修了式

このプログラムに参加した理由は参加者と「広く浅く繋がりを作れたら」と思ったからです。一年間40回強の講義を受け、一緒に学んだ方々と「同級生」という意識の繋がりを作れたことは、当初の目的を達成できたと感じています。今後の抱負としては、CCクラブという組織に参加し、新たな仲間と交流し自分が得意とする分野で、微力ながら自分の存在価値を認識できればと考えています。 甲野 博己

定年退職のちょうどそのタイミングでCC大学に出会えたことは、幸運としか言いようがありません。ご多分に漏れず会社人間だった自分が、市民としてどう地域と関わっていけるのかを教わる事が出来た気がしています。一方で、

港区という裕福な行政で貧困を考えるという違和感も感じ続けた一年ではありましたが、この経験を今後活かせたらと思っています。ありがとうございました。 澤田 公一

初めての授業のNHKドキュメンタリー映像、あの時、涙したことを思い出す。あのシーンと妹の死が重なった。少し連絡がなかった妹が隣人の気づきによって4日後に私は知った。あれから10年近く経つ今でも思い出す。故人と遺族の悲痛を考えるとコミュニティーの大切さを感じている。私が馴染みにしているカフェでCC大学の話題を出した事でお客様の一人が17期生に入学したと店主から聞いた。繋がりが産まれて嬉しく思う。 Y. S.

孤立死から始まり筋トレの重要性と「ネットワーク作りにもまず前進」に終わる文化面も含め充実したカリキュラム、民生委員さんや看護師さんや皆さんのお話を聞いたグループ討議などで、見える景色が変わったように思います。健康と幸せと福祉のすべてを含むウエルビーイングについて、もう少し読んでみようと思図書館を利用していただいています。本当にありがとうございました。 S. H.

私は現在、各種のグループ（ハイキング、相互語り部等）に参加していますが、それらがCC大学の卒業生によるものとは最近まで知りませんでした。今後は単に参加だけでなく、自分が主体的にやるべきとは思っています。最近、同期生の方が料理教室を開設するとのことで、ご近所の方ですので受付等のお手伝いをする事にしました。徐々に参加やお手伝いなどから、自分が主体的に何ができるのかを、考えていきたいと思っております。 福田 欽司

CC大学の一年間はあっという間でした。色々な分野の先生方の講義は難解な内容もありましたが、バランスのとれたカリキュラムは飽きる事無く、初めて知る事も多く勉強になりました。又、日頃お世話下さった事務局の方々は最後まできめ細かく接して頂き有難うございました。これからは、等身大の自分で何か地域に関わっていければと思います。 Y. K.

2024年春CCクラブまち歩き (5月22日・赤坂の坂、坂、坂)

当日は31人の参加者が赤坂見附に集まり、出発前に今回のテーマが「なぜ“赤坂の坂、坂、坂”なのか」という課題が出ました。

青空の下、3グループに分かれ、まずは牛鳴坂を上り、山脇学園（武家屋敷を思わせる重要文化財の「志の門」が突然現れてびっくり）



とらや、豊川稲荷（神社ではなく寺）へと進み、さらに薬研坂を上り、円通寺、報土寺へと向かいました。次に行った勝海舟の屋敷跡は、今はモダンなバーになっていました。勝海舟には本妻と5人の妾がいて9人の子供も含め皆同居していたとか、福沢諭吉と仲が悪かったとか、最後に言い残した言葉が「これでおしまい！」とか…沢山の興味深い勝海舟の逸話を聴き、勝海舟をより身近に感じました。その後、氷川坂を上り四合稲荷神社と氷川神社を訪れ、氷川神社で参拝した後、アメリカ大使館宿舎を通過して、海舟龍馬子弟像を見物し、美しい色とりどりのバラが咲き乱れる氷川公園でお開きになりました。海舟龍馬子弟像の前で外人が熱心に写真を撮っていたのが印象的でした。

赤坂近辺は、実に坂が多く、2時間歩くと汗だくになります。あっ!“坂、坂、坂”とは坂が多いことだと答えを見つけたつもりでいたら、はずれました。予定最終地点の「赤坂サカス」をローマ字書き(Akasaka Sakas)にして、後ろから読んで“Sakasakasaka”が正解でした。

普段、何気なく歩いている「まち」も、こうして色々な知識を得て散策すれば、2倍3倍に楽しめるということを学んだ、とても有意義な一日でした。(15期 森容子)



15期提案国立近代美術館探訪

5月29日(水)に「立夏の美術館で建築を学ぼう」のテーマで国立近代美術館での講演会、見学会が実施されました。今回の企画は2024年度のCCクラブ計画を運営委員会で検討した際に、15期2グループから提案され、運営を15期が計画し実現しました。当日の参加者は15期を中心に32名で、美術、建築の知見を高める有意義なイベントとなりました。

15期生で一級建築士の横田重雄さんの講演において、普段何となく見ている建築物がどのような考えに基づいて(あるものは文化遺産として)残っているかについて新しい気づきがありました。古くから残っているもの、取り壊されたもの、一部残っているものなど、変遷及びそのコンセプトが明確になりました。



講演者の横田重雄さんと講演会場

さらに国立近代美術館の建築思想について以下の説明がなされました。

1. 社会と建築の関係を重視する。
2. 日本を代表するモダニズム建築である、
3. 都市資産として皇居の周りにふさわしい景観を作る。

後半には美術館各所で実物解説が行われました。今後は、建築物を改修、保存の視点で鑑賞してゆきたい、奥底にある思想を理解したいと思いました。(15期 宇津真治)



講演会が始まる前の集合写真

■運営委員会報告

2024年度の運営委員、部会員、地域CCクラブ委員は以下の通りです。

2024年度 CCクラブ運営委員会・部会メンバー

(2024年6月30日現在)

	代 表	阿部 令子 ^⑩	副 代 表	瀬能 正実 ^⑩	松嶋 恵美子 ^⑩
運営委員会	運 営 委 員		運 営 委 員		運 営 委 員
1 期	② 吉田 秀博	9 期	② 安達 周	14 期	① 菊池 誠
2 期	② 野口 美津子		① 仙道 恒子		② 藤田 泰彦
3 期	② 池谷 敏雄(連)	10 期	② 瀬能 正実		③ 出島 由治
4 期	② 平岩 力 (連)		③ 丸山 幸秀		① 谷 淳
5 期	① 呉 東富	11 期	① 坂野 哲司	15 期	② 安井 裕子
6 期	① 村上 英一郎	12 期	① 本藤 英敏		③ 岡田 梨香
7 期	② 太田 則義	13 期	① 金城 恒夫	16 期	① 宮崎 則行
8 期	① 加藤 待子		② 安住 芳英		② 石賀 秀行
			③ 丸毛 昭生		③ 藤田 枝折

・ (連) は連絡員

部 会	部 会 長 副部会長	部 会 員			
企画部会	太田 則義 ^⑦	野口 美津子 ^② 丸山 保夫 ^⑦ 西田 宏子 ^⑨ 阿部 令子 ^⑩ 平田 渥美 ^⑫	中嶋 博 ^⑫ 内田 眞也 ^⑬ 小川 寧子 ^⑬ 清水 和美 ^⑬ 桑原 いづみ ^⑭	齋藤 美加代 ^⑮ 高橋 恵美子 ^⑮ 鴨下 尚子 ^⑮ 難波 富貴 ^⑮ 北川 範子 ^⑮	木村 恵子 ^⑯ 近江 久美子 ^⑯ 袖田 正子 ^⑯ 服部 厚雄 ^⑯ 掛林 敦子 ^⑯
HP部会	岡部 正実 ^⑩ 福岡 哲郎 ^⑩ (副)	齋藤 正精 ^⑥ 佐藤 紀子 ^⑥	石賀 幹春 ^⑨ 松尾 知足 ^⑭	阿部 正人 ^⑮ 佐藤 直樹 ^⑮	横山 隆 ^⑯
地域連携部会	金原 智子 ^⑩ 太田 則義 ^⑦ (副) 今泉 昌代 ^⑩ (副) 荒川 太 ^⑭ (副)	呉 東富 ^⑤ 丸毛 昭生 ^⑬ 小杉 良子 ^⑭	大友 登喜雄 ^⑮ 大住 美佐子 ^⑯ 甲野 裕子 ^⑯	丸山 正雄 ^⑯ 竹内 万理子 ^⑯ 袴田 順子 ^⑯	
会報部会	瀬能 正実 ^⑩	古橋 義弘 ^① 太田 則義 ^⑦ 池畑 博実 ^⑩	棟方 千恵子 ^⑫ 長峯 浩子 ^⑮ 森 容子 ^⑮	宇津 真治 ^⑮ 石賀 秀行 ^⑯ 周藤 孝夫 ^⑮ (協)	
総務部会	池上 繁夫 ^⑮ 秋元 宏 ^⑧ (副)	石川 啓子 ^⑧ 岩佐 徳太郎 ^⑨	丸山 幸秀 ^⑩ 松嶋 恵美子 ^⑩	吉野 由美子 ^⑭ 茂木 壽 ^⑯	

・ 部会長・副部会長の(副)は副部会長

地 域 C C ク ラ ブ (運 営 委 員)			
芝 C C ク ラ ブ	荒川 太 ^⑭	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	福岡 哲郎 ^⑩
高輪地区 C C ク ラ ブ	小峰 由紀 ^⑩	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	宮崎 則行 ^⑯

運営委員会の●数字はグループ、それ以外の欄の○数字は期
地域CCクラブ代表

地 域 C C ク ラ ブ (代 表)			
芝 C C ク ラ ブ	石川 啓子 ^⑧	明虹会(港南・芝浦・台場地域)	齋藤 正精 ^⑥
高輪地区 C C ク ラ ブ	太田 則義 ^⑦	3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地域)	宮崎 則行 ^⑯

編集後記

2019年から続いたコロナ禍も収束に向かい、CCクラブの諸活動も活発化してきたことを嬉しく思います。チャレンジコミュニティ通信 52号は、運営委員会の新体制を紹介し、CCクラブ総会や会員皆様のいろいろな活動を紹介します。

コロナ対策も続けながら、地域活動を通じて体と頭を使うことにより、免疫力も高まり健康維持に役立つものと思います。皆様の積極的な活動に期待します。(15期 周藤孝夫)

チャレンジコミュニティ通信 vol.52 2024年8月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 学長室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

印刷協力 港区高輪地区総合支所協働推進課

会報部会

部会長 瀬能 正実 (10期)

部員 古橋 義弘 (1期)

部員 太田 則義 (7期)

部員 池畑 博実 (10期)

部員 棟方 千恵子 (12期)

部員 長峯 浩子 (15期)

部員 森 容子 (15期)

部員 宇津 真治 (15期)

部員 石賀 秀行 (16期)

協力部員 周藤 孝夫 (15期)